

議事要旨(1) ASAFレビューに関するフィードバック文書

小賀坂副委員長及び関口常勤委員より、ASAF レビューに関するフィードバック文書について、審議資料に基づき説明がなされ、審議が行われた。

説明に対する委員及びオブザーバーからの主なコメントと、それらに対する事務局からの回答は次のとおりである。

- あるオブザーバーより、次のコメントがあった。
 - これまで、ASAF のメンバーシップは 2 年毎に見直すと言われていたが、これが 3 年毎に変更されたことについて、変更の理由は示されていたか。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

- フィードバック文書には、ASAF で審議される複雑な論点に習熟するために 2 年間では短すぎると考えられたため、3 年毎に見直しを行うことが適切との判断が IFRS 財団トラスティーによってなされた旨が記載されている。

- ある委員より、次のコメントがあった。
 - ASAF 会議の取決めから「会議のアジェンダは、最終的に、ASAF 議長の判断において決定するものとする。」という記載を削除する旨が IFRS 財団トラスティーによって決定されたとされているが、今後、誰が会議のアジェンダを決定することになるのか。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

- 現状においても、会議のアジェンダは、ASAF メンバーと IASB 関係者（ASAF 議長を含む。）の間の協議によって決定されており、今回の修正は、この点を踏まえてなされたものと認識している。

- ある委員より、次のコメントがあった。
 - 会議の運営に関する今後の改善点として、「ASAF メンバーと IASB との間における効果的でテクニカルな議論を促す」旨が挙げられているが、具体的にどのような内容が想定されているのか。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

- ご質問の点は、「ASAF 会議において、ASAF メンバーと IASB 関係者の間の双方向の議論が一層促されるべき」との提言を踏まえた改善点と認識している。

- ある委員より、次のコメントがあった。
 - フィードバック文書に記載されている IFRS 財団トラスティーによる決定事項には、

当委員会からのコメントも相当程度反映されているようだが、事務局として、この点についてどのように評価しているか。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

- ASAF レビューについて当委員会から提案した事項は、主に次の 3 点であった。このうち、1 点目は今後の検討課題とされているほか、2 点目は特段明らかにされておらず、3 点目はフォードバック文書において今後の改善点として明示されている。このため、当委員会からのコメントは相当程度反映されたと言えるのではないかと。
- ✓ IASB のデュー・プロセスハンドブックにおいて、ASAF における協議を基準開発におけるデュー・プロセスの一部として明示すべきである。
- ✓ IASB が重要な意思決定をする前に、ASAF 会議を開催すべきである。
- ✓ ASAF メンバーと IASB との間における双方向の議論を促すべきである。

以 上